



独立行政法人

統計センター

資料3

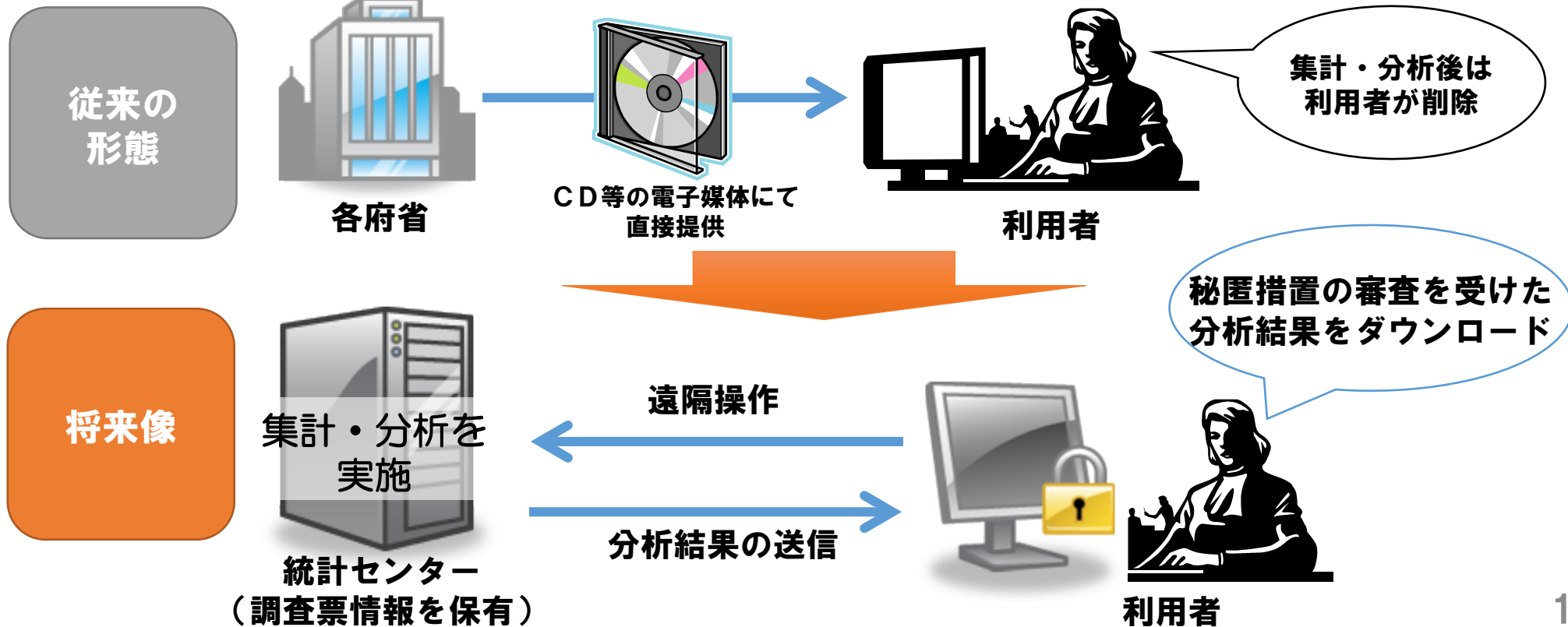
リモートアクセスに関する実証検証 (中間報告)

平成26年3月

独立行政法人統計センター

検討の趣旨

- ◆ 統計法第33条の規定に基づく調査票情報の利用形態については、調査対象者の秘密保護のためのセキュリティ確保に万全を期すとともに、利用の申出・審査に係る事務の効率化が求められているところ
- ◆ かかる要請に対応するための一方策として、シンクライアント技術等を活用したリモートアクセスについて、その実現可能性に関する技術的な検討を平成25年4月から実施
- ◆ 本検討においては、将来、各府省から調査票情報の提供に関する事務の委託を受けた場合を想定

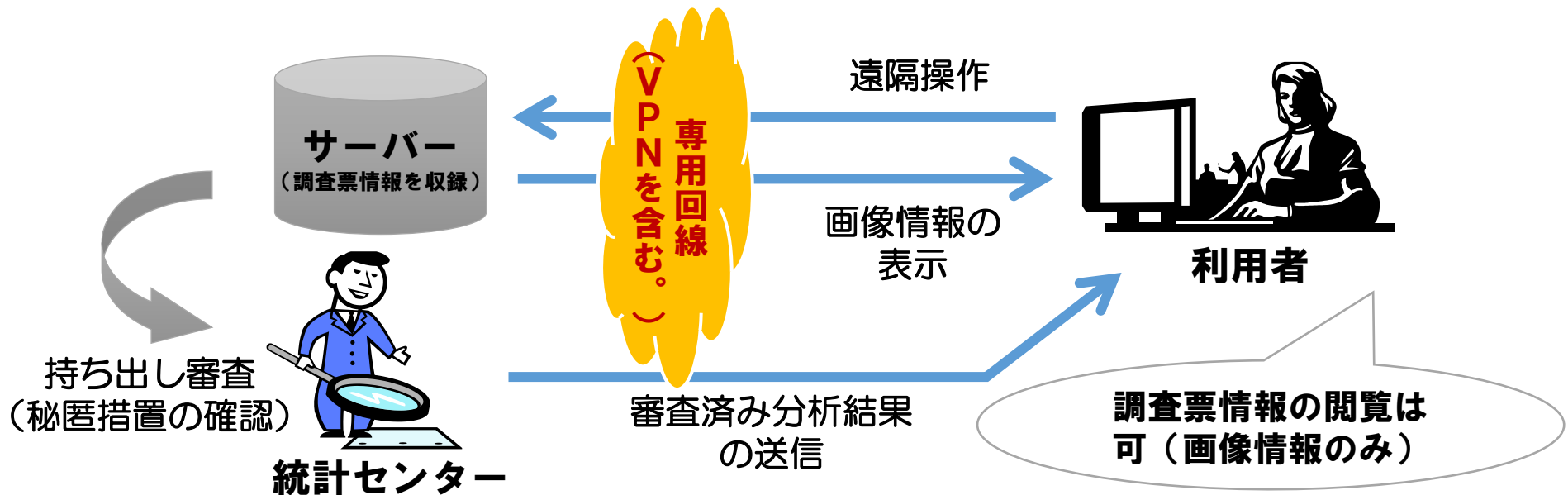


目標とする調査票情報の使用形態

- ◆ 統計センターにおいて、調査票情報及びこれを解析するためのツール（SAS、Stata、R、SPSS等）を用意し、以下の形態により統計法第33条第2号に定める研究者等（統計法施行規則第9条に掲げる統計の作成等を行う者をいう。）が調査票情報を利用する環境を提供
- ◆ 研究者等は、上記環境で調査票情報を使用して得た分析結果についてのみ持ち出し可能

リモートアクセスを活用したオンサイト利用

- 統計センターと利用者の端末との間を専用回線（VPNを含む。）で接続
- 利用者は当該回線を経由して集計・分析を実施（この際、端末の画面に調査票情報を画像情報として表示することは許容）

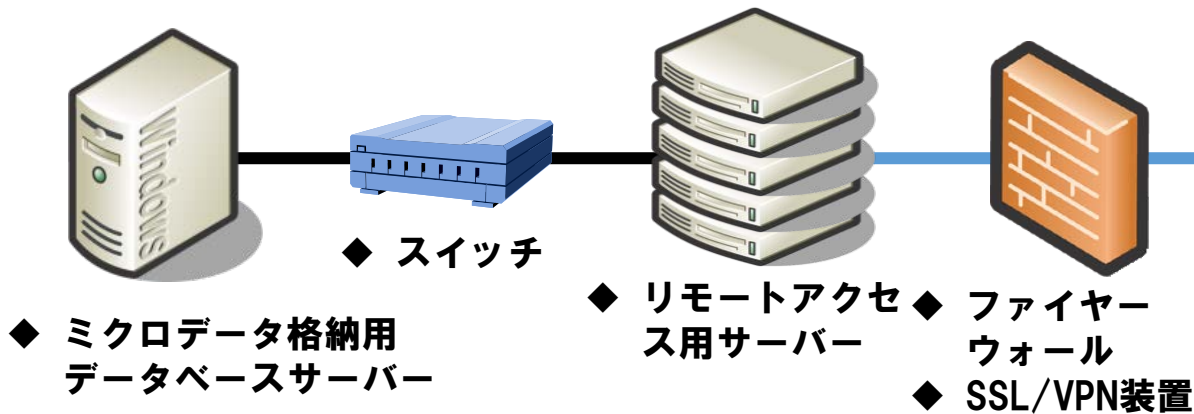


実証検証の概要

- ◆ 以下の実証研究用基盤構成による利用環境がリモートアクセスによる調査票情報の利用に適するか、データ転送の負荷等について実証検証を実施
- ◆ 実証検証に当たっては、現在試行提供中の全国消費実態調査の擬似マイクロデータ※を活用し、Rによる多変量解析等を実施（統計センター職員及び大学への出向者により実際の分析作業から論文作成までを行い検証）

※レコード数：約3万2千レコード、変数197項目

統計センター設置機器等



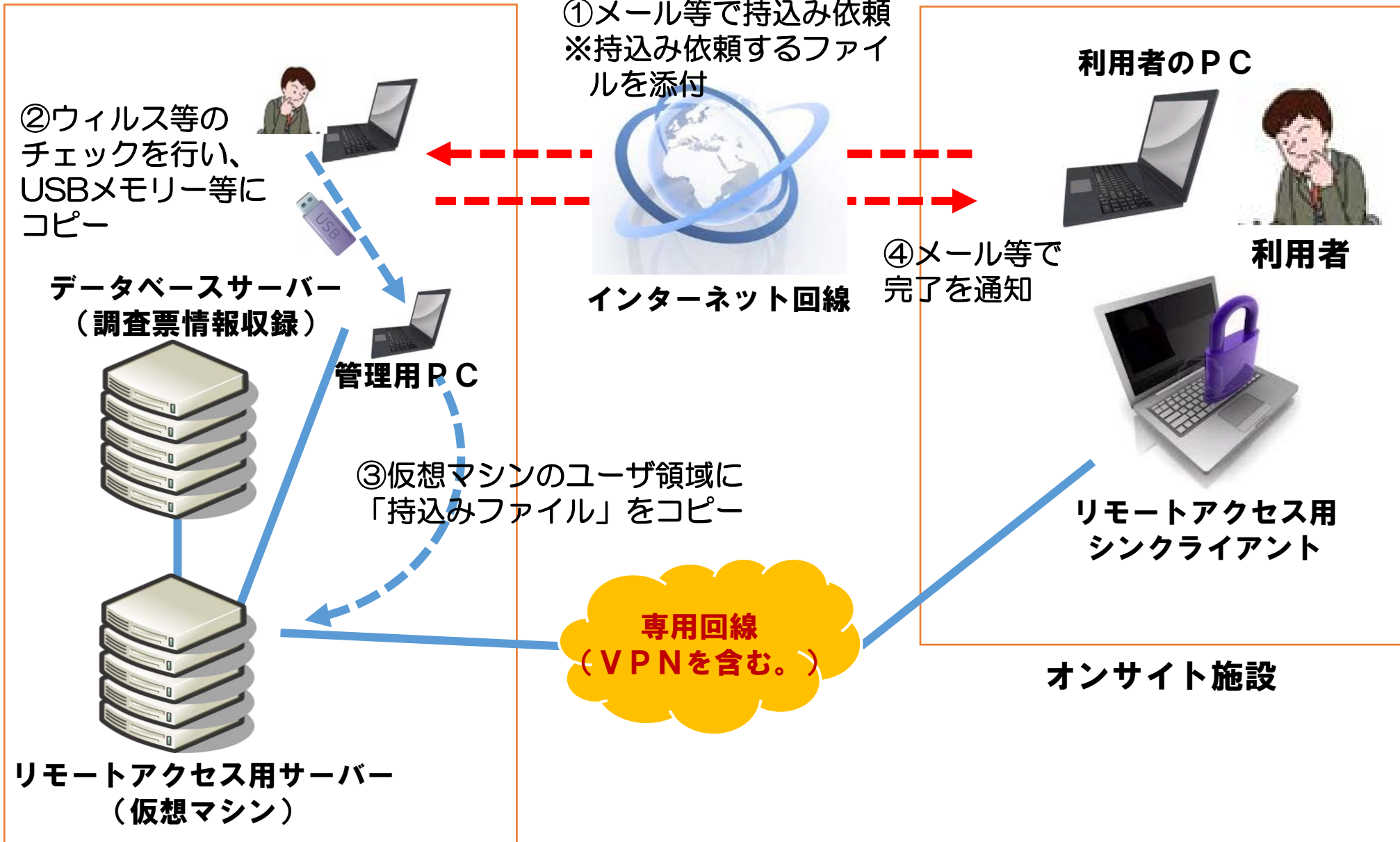
利用者

統計センターから機器を貸し出し

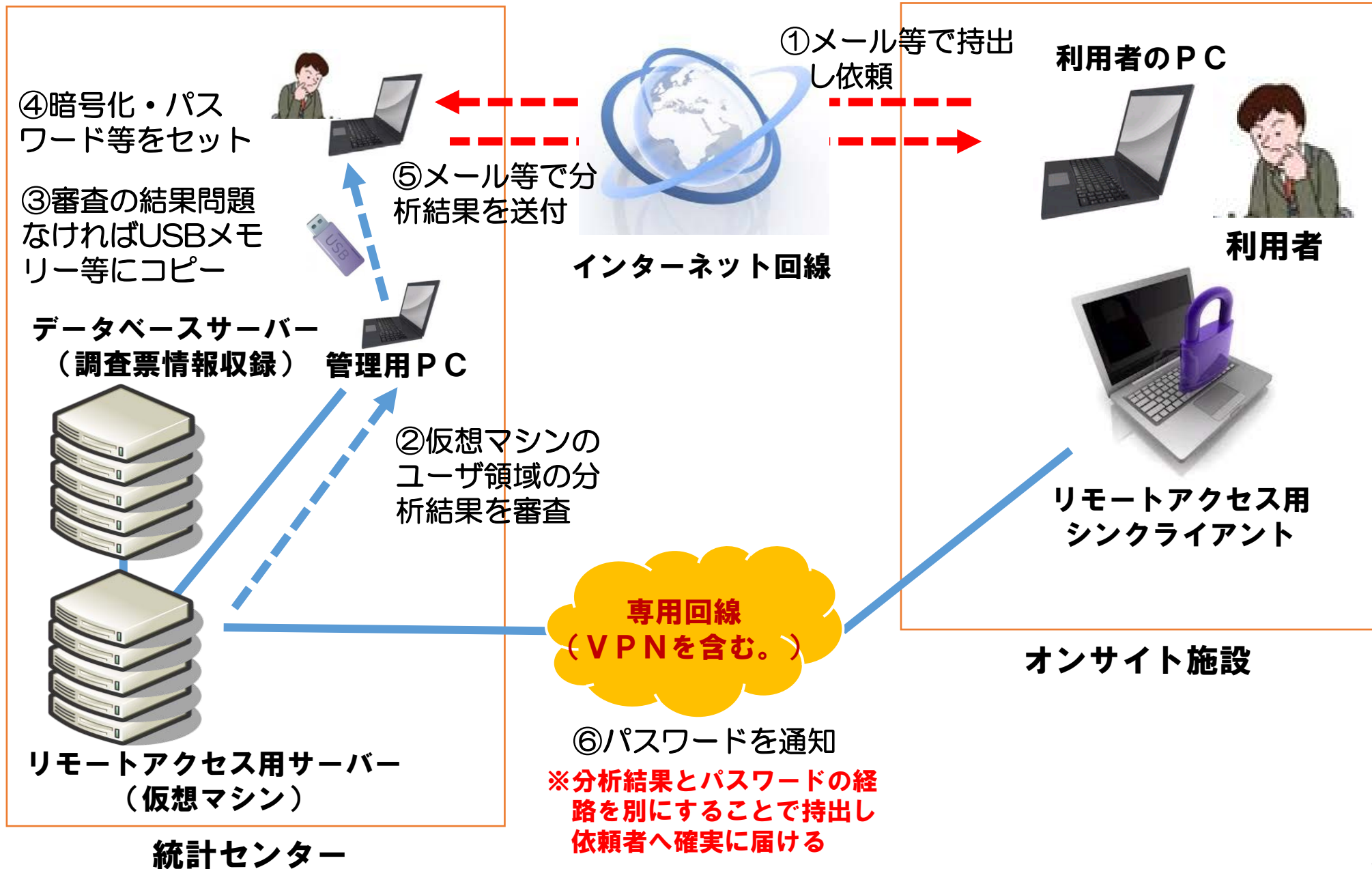


- ◆ シンクライアント
- ◆ 認証用USBキーデバイス

利用者によるファイルの持込み（案）



分析結果の持出し（案）



利用者からの主な意見

使用感について

- ◆ 接続は容易にできた（大学のネットワーク及び光回線、ケーブル回線で確認）。
- ◆ WordやExcelを使用中に多少動作が重いと感じる時もあったが、おおむね問題なく操作できた。

ソフトウェアについて

- ◆ Rについては、パッケージの追加や利用者ごとの環境設定が柔軟に行えると良いのではないか。
- ◆ テキストエディタは好みが分かれることから、選択できると良いのではないか。
- ◆ フリーソフトについては、利用者の要望に応じて導入ができると良いのではないか（プログラム関係以外にも、論文作成についてT e Xを導入した方が良いとの意見があった。）。
- ◆ SAS、S t a t a、S P S S等有償ソフトを導入できないか（利用者が購入したソフトウェアの導入ができるとなお良い。）。

その他

- ◆ 利用期間終了後に再申請する場合なども考えられることから、利用環境（分析結果を含む。）の保存について検討が必要ではないか。
- ◆ 離席中の対応など利用者が守るべきルールについて、明確化を図るべきではないか。